

※(2)体のきん肉は、きん肉でもよい。

④	③	② ※		①	
エ	ア	頭	体のきん肉	B	A
				た	指
				く	先
				さ	に
				ん	は
				あ	神
				る	け
				か	い
				ら	が
					よく使う所。

「かいせつ」

(1) A お母さんの言葉に、「ほら、体って、よく使う所がきたえられるでしょ。」とある。

B 「指先を使う細かい作業は、頭のはたらきをよくするんだって。」の一文の後に、「指先には神けいがたくさんあるから」と、あることに注目する。  
 「から」や「ので」は、理由を表すときに使う言葉である。

(2) お父さんの言葉に、「たとえば、スポーツ。スポーツできたえられるのは、体のきん肉だって思うだろう。でも、頭もきたえられるんだよ。」とある。「頭も」とあるので、「頭」の他に、もう一つあることが分かる。

(3) お父さんの言葉に、「体を動かすときは、頭がきん肉に命れいを出しているんだ。」とある。

(4) 最後のお父さんの言葉から読み取る。お父さんが、頭をよくするために、よいと考えていることは、次のことである。

- ・よくねること。
- ・勉強すること。
- ・遊ぶこと。
- ・えいようをとること。
- ・運動すること。

エの「とくべつなこと」は、やってもつづかないと言っているので、よいとは考えていないことが分かる。

④ イ	③ ア	② から。	く で 待 ち 合 わ せ る	友だちとは、いつも、 家の の 近	①		
					C やくそく	B レストラン	A お母さんのたん生日

「かいせつ」

(1) 本文に、「今日は、お母さんのたん生日なので、三人でレストランへ行くやくそくをしています。」とある。

(2) コトネの言葉に、「いつも、家の近くで待ち合わせるから、こまったことはないなあ。」とある。

(3) 「そんな」は、「こそあど言葉」である。他に、「これ」や「そこ」「あちら」「どう」などがあり、こそあど言葉より前の、文章中の言葉を指ししめすことができる。

「そんなとき」の後の部分に注目する。お父さんが、「動き回らずに、待ち合わせの場所においてね」と言ったのは、どんなときかを考えればよい。

(4) 「どきどきする」には、「よろこびやふあんで、心ぞうの動きが早くなる様子。」という意味がある。

ここでは、②線部の前のお母さんの言葉に対して、コトネが、「どきどきする」と言っているので、イ「ふあんな気持ち」だと分かる。



	②		①						
③			B		A				
イ	②	きん肉	①	頭	作	指			
							業	先	を
				②		①			
						頭をよく使う		けんこう	

「かいせつ」

(1) A お母さんの言葉に、「やっぱり、けんこうで、頭をよく使うことが大切なんじゃないかしら。」とある。

B お母さんの言葉に、「そういえば、頭を使うのは、勉強だけじゃないのよ。指先を使う細かい作業は、頭のはたらきをよくするんだって。」とある。

(2) お父さんの言葉に、「体を動かすときは、頭がきん肉に命れいを出しているんだ。」とある。

(3) 最後のお父さんの言葉から読み取る。お父さんが、頭をよくするために、よいと考えていることは、次のことである。

- ・よくねること。
- ・えいようをとること。
- ・勉強すること。
- ・運動すること。
- ・遊ぶこと。

イの「とくべつなこと」は、やってもつづかないと言っているので、よいとは考えていないことが分かる。

③		②		①	
B		A		電話	おそくなる
ほしい。	合	動	エ		
	わ	き		さ	母
	せ	回		ん	さ
	の	ら		を待っている。	
	場	ず			
	所	に、			
	にいて	待		ん	と
		ち		駅	で
				お	お

「かいせつ」

(1) 本文に、「コトネとお母さんは、駅でお父さんを待っています。」とある。

(2) コトネの言葉に、「そうだよ。その場所へ行くのがおそくなる時、電話できないもんね。」とある。

(3) A お母さんの言葉に、「でも、もし、家からはなれた所で待ち合わせをして、時間どおりに相手に会えないとするでしょう。そうすると、場所がちがうかなあとか、時間をまちがえたかなあとか、だんだん心配になってくるわよね。」「さがしに行きたいけど、他の場所に行っている間に相手が来たらと思うと、それもできないでしょ。」とある。エの内よりは、本文に書かれていない。

B お母さんの言葉に、「さがしに行きたいけど、そんなときお父さんは、動き回らずに、待ち合わせの場所にいてね、って言うのよ。」とある。



				①		
る	友	イ	イ	ま	ん	お
こ	だ	ウ		っ	歩	じ
と	ち			て	道	い
が	を			いたから。 をわたれなくて、		さ
で	元		ん			
き	気		が			
る	に		横			
人。	す			こ	だ	

「かいせつ」

(1) コトネの言葉に、「お母さん。同じクラスのケンタさんがね、この前、横たん歩道をわたれなくて、こまっているおじいさんを、助けていたの。はたを持って車に止まってもらって、いっしょにわたっていたんだ。」とある。

(2) コトネの言葉に、「やさしくしてもらうのもうれしいけど、『ありがとう』って言われるのも、同じくらいうれしいよね。」とある。「同じくらい」という言葉が、手がかりになる。

(3) コトネの言葉に注目する。

- ・「コウキさんは、いつも元気いっぱいだから、いっしょにいると元気になれるの。」↓コウキ
- ・「あっ、わたし、お母さんのそばにいるときも、元気になるよ。」↓お母さん

(4) 「そんな人」は、前のコトネの言葉、「友だちを元気にすることができると、すてきだと思わない。」を受け



※(4)は順不同

④※	③	②		①
ウ	ア、エ	し	友だちに	はた
エ		て		
		あ	消	②
		げ	し	
		た	ゴ	
		から。	ム	
			を	横だん歩道
			か	

「かいせつ」

(1) コトネの言葉に、「お母さん。同じクラスのケンタさんがね、この前、横だん歩道をわたれなくて、こまっているおじいさんを、助けていたの。はたを持って車に止まってもらって、いっしょにわたっていたんだ。」とある。

(2) ー線部の前に、コトネが友だちに、どんなことをしていたかに注目する。

(3) コトネの言葉に、「友だちと、ちょっとけんかしたとき、悲しくなるでしょう。でも、コウキさんが近くで元気に話していると、悲しい気持ちが消えていく気がするの。友だちにあやまって、元気になろうって思うの。友だちを元気にすることができるなんて、すてきだと思わない。」とある。

(4) コトネの言葉に注目する。

- ・「コウキさんは、いつも元気いっぱいだから、いっしょにいると元気になれるの。」↓コウキ
- ・「あっ、わたし、お母さんのそばにいるときも、元気になるよ。」↓お母さん